

## 令和4年度第4回 尼崎市文化ビジョン会議 議事録(要旨)

日時	11月10日(木) 13:00~15:00
場所	尼崎市役所 議会棟 3F 西会議室
委員	上野委員、大永委員、大橋委員、坂上委員、武元委員、古川委員、善見委員 ※欠席:原委員、福田委員
事務局	総合政策局長、文化振興課長、文化振興課職員4人
オブザーバー	(公財)尼崎市文化振興財団 常務理事、事務局長

### 1 開会

(事務局)

(会議運営について)

- ① 傍聴:希望者には傍聴を認める。市のHPで告知する。(本日は0人)
- ② 会議記録:録音に基づき議事録案を作成し、委員確認後に確定する予定。
- ③ 配布資料の確認。(議事次第、資料1、資料2、資料3、R4 施策評価表抜粋、市主催事業チラシ)

### 2 尼崎市文化ビジョン(第2次)素案の修正について

(コーディネーター)

素案に対してご意見を伺うのは今日が最後となるので、お気づきの点はどんどご発言をお願いしたい。

では、資料に関して、事務局より説明を。

(事務局)

(資料説明)

- ・資料1 第3回尼崎市文化ビジョン会議での主な委員発言と素案修正について
- ・資料2 尼崎市文化ビジョン(第2次)素案 1109版

(コーディネーター)

前回いただいた皆様のご意見を、素案に反映させている。ただし、細かいところまで全て反映されているわけではないので、今日これからご意見をいただいて最終的な取りまとめに活かしていきたい。それでは今の説明や資料1・2について、委員の皆さまにご質問、ご意見、ご感想も含めご発言をお願いしたい。

(委員)

これまで3回にわたり多くの意見が出たが、都度修正し、ビジョン会議に出していただいている。今回の素案の感想を申し上げますと、「はじめに」で全て要約されている、完結しているのではないかと。また、「ビジョン会議委員から」ということで皆の想いをひとつにした形で、文化というものに対

し、農業という例えで表現されている。総合計画の大きなベースの中で、文化をどう取り入れているかということで文化ビジョン会議が行われているが、私は文化というものは、生涯にわたる学びに根差しているものだと思います。35年暮らしてきた。市民に伝わるかどうかと思わなくもないが、目指すべき方向性は打ち出していると評価したいと思う。細かい一つ一つのことは各章で理解できるようにになっている。これをしっかりとビジョンがビジョンとして市民に読んでいただけることを期待したい。

#### (委員)

今日、ピッコロシアターでは上坂部小学校の児童をお迎えし、ピッコロ劇団のおでかけステージを行っている。尼崎在住の作家・谷口雅美さんと共同で作品づくりをしたもので、小学6年生の最後の夏休みがテーマの作品。午前中の公演の様子を見てきたが、1年生から3年生まで児童が客席でイキイキ反応する様子や物語に引き込まれる様子がみられた。こういった経験が「身体的文化資本」を獲得していくことになると実感した。ビジョンの中にもP3、P4、P9と繰り返し「身体的文化資本」について触れている。子どものときに本物のいいものに触れる、いい体験をすることでこういったものが培われる、と書かれている。まさにその人の立ち居振る舞い、人との接し方、多様な人と一緒にやっていく主体性、多様性が含まれてくると思うが、改めて大事だと感じた。経済格差と教育格差には相関関係があることは既に認知されているが、昨今、「身体的文化資本」の格差が大学進学率や就職率にも関係するとも言われている。劇場事業においては、例えば、高校へのアウトリーチ事業やコミュニケーションワークショップのアウトカムとして、その高校の不登校や中退率が減るという指標が求められていることがある。そういったことから、P10社会包摂のところで、「障害者をはじめ様々な背景や状況の市民」と書かれているが具体的にどういった市民を想定していくのか、文言を加える必要があるかどうか、議論したい。身体的文化資本が育まれるような家庭の基盤がない子どもや、経済的に困難な市民の方も想定されるのか。コロナ禍で生の体験がしづらくなっているが、今日の鑑賞会を見ているとも子どもたちのこうした体験する瞬間を手放したくないと強く思った。

#### (コーディネーター)

素晴らしいですね。専門家が子どもたちに学ぶという、社会包摂の最前線をお話いただいた。これについては私も、P10の最後のところと、P8の人材育成の多様性のところでも出てきており、その辺りの整理が必要かもしれないし、表現に工夫の余地があるのかなと感じる。後でご相談したい。

#### (事務局)

経済的な困窮や家庭での養育が十分に受けられない子ども、また大人でも経済的困窮や社会的孤立などで十分につながっていない人たちが存在する中で、SDGsの誰一人取り残さない、という視点を文化の世界にも、という意味でこの項目を作っている。例示は一つのメッセージにもなるので、障害者だけが特出しされている状態がいいのかということだと理解した。素案を事務局で検討する中では、どんな家庭の子どもも均等に文化に触れる機会である学校との連携を大事

にすべきだということは意識している。文言整理の必要性も含め事務局で預らせていただきたい。

(委員)

素案にイベントの写真が入ってイメージしやすくなったと思った。できれば弾き語りやバンドなど音楽の写真が入ると私的には嬉しい。

応援するというメッセージはわかりやすく伝わってきたが、P7「発表の機会」については、例えばこういう発表をする機会とか具体例があるとわかりやすいと思った。

「若い人」という表現については、自分も年齢を重ねていくと、音楽をしていく上でどうしようかと考えたりするが、最近は辞める必要はないなど思ってきている。20代とは活動の仕方は変わってくるが、30代・40代でも方向性を変えて、でも音楽を続けていきたいと思うので、若い心を持っていたいと思っている。辞めずともずっと続けていける環境があって、どんな年代でも取り組んでいけたらいいと思った。

(委員)

社会包摂について、ネグレクト家庭や色々な背景がある家庭には、文化が届きにくいということがあると思うが、その家庭にはサービス先で提供できたらいいと思う。学校に在籍していれば学校から提供されるが、未就学生や不登校など、そういう家庭はまず外に出にくいので、福祉や行政のサービスで招待とか文化に触れる機会があればいいと感じた。ただ、全部を書くことはやはり難しい、広がって行き過ぎるなど思うので、ある程度形を決めて書いていくのがいいのかなと思った。

障害者は、障害者施設で文化に触れる機会があったり、障害者手帳を持っていれば入場料無料という施設もある。ただ、どういったサービスを受けられるのか、映画が1000円になるという案内はあってもピッコロシアターやアルカイックホールでこういう割引があるという案内はない。もっと深い文化に触れるような内容を知らせて欲しい。ここの文章の修正などとは関係がないが補足としてお話しした。

先日、新宿御苑で行われたSDGsのイベントに参加した。いろんな国や県のSDGsの取組が紹介され、貧困家庭やLGBTなど少数の方に対してこう取組をしているというのがあり、こういうのを尼崎でやっても面白いだろうと思った。これも文化の一つだと思う。

私も活動に年齢は全然関係ないと思う。好きなことをやったらいい。私もプラスサイズモデルをして3年目となり、遅咲きだが、ちゃんと報酬ももらってやっている。

(委員)

前回とその前の会議の意見を盛り込んであり、特に修正意見はない。

最近、コロナの第8波の兆候が言われているが、それでもコロナの前に社会が戻りつつあるのかなと思っている。1.17もコロナ前の状態に戻してやっていくというのを新聞で読み、これからは活動が活発になっていくのかなと感じている。

(委員)

立派な素案にまとまったと思う。

先日、A-LAB に行ったが、3 名のどの展示も素晴らしかった。作品もそうだが市としてこういうことを推進しているのが素晴らしい。これは始めて何年になるのか？

(オブザーバー)

平成 27 年からで 7 年になる。

(委員)

欲を言うと、もう少し駅に近いなど地の利がよければもっとお客さんが来るのではと思う。私が A-LAB に入ったのが 16 時過ぎだったがずっと一人で、最後 10 分前位に一人入ってこられた。ぜひ継続して行って欲しい。

ご紹介のピッコロシアターの招待公演は無料か有料か。

(委員)

小学校から公演料はいただいているが、文化庁助成金も活用しながら、なるべく安価で実施できるようにしている。

(委員)

コロナ禍でそういった機会も減っていた。やはり大事なことは子どもにいい文化を差し上げること。これが基本姿勢であり、どう感じるか、音楽が好きなのか絵画が好きなのかは、子どもによって違うが、それを大人が推進して与えることである。私は鑑賞会をもっとできないかと思っている。それが演奏者の雇用にもつながっていく。

あと、質問だが、資料 3 で<新>尼崎文化ビジョン推進懇話会とあるが、これは何年か後に移行されるのか。

(事務局)

文化ビジョンを令和 5 年度から令和 14 年度までの計画として策定してくので、移行は令和 5 年度からとなる。詳しくは後程ご説明する。

(委員)

落研選手権もお客さんが満席になればいいなと思う。全国の大学の大会としてぜひ継続して行って欲しい。

(コーディネーター)

委員から感想も含め一通りご意見をいただいた。大変貴重なご指摘もあり、何人かから社会的包摂についてのお話があった。尼崎にあふれる文化は生活の営みそのものであることから、必ずしも芸術・音楽だけではなく、私たちの暮らしの中でどう考えるかということで、経済的格差・社会

的格差が文化の享受に影響しては困るというのは大事なところである。

積極的に取り組むという趣旨を詳しく盛り込むべきとお考えか、或いは社会的包摂を全体のトーンの中でもっと強調すべきということか、いかがでしょう。

(委員)

身体的文化資本を獲得していくことで、子どもたちの健全育成につながり、将来的には、健全な納税者と言うべきか、市や町を支える存在になっていくのだと思う。ただそこまで文化ビジョンに書き込むべきなのか迷うところだ。ただ、芸術が趣味として楽しむだけでなく地域を活性させる力を持つとして認識されている、と書かれており、その具体的な中身までを書くかどうか。例えば、活発な市民活動に多くの市民が参加することにより、健康寿命が延びて医療費負担が減っていくか、そういうことを目指すのか。私たち劇場の仕事としては、そこまでを見据えてるところはある。

(コーディネーター)

それに関連して、補足をお願いしたい。先ほど福祉的なサービスでも文化を届けるとよいという意見があったが、これは文化に触れる機会をもっと多くするというだけなのか、或いは社会的包摂の意味でなかなか文化に触れる機会の少ない人たちを重点的にということか。具体的にどんなイメージであるか、教えていただきたい。

(委員)

広く書きすぎてしまうと全部は書けないと思う。例えば、学校でできるところは学校でやってもらうが、それ以外の家庭については福祉サービスに属している人だったらいけるな、ということ。ただ、それ以外の人たちに全部が全部することは正直難しいし、いろんな家庭があるので、いけたらラッキーという感じである。見える環境にいる人は見えるけど、見えない環境にいる人は本当に何も見えないと思うので、そういう子たちが見る環境を尼崎市が作っていければいいなという希望である。

(コーディネーター)

よく分かりました。あらゆるところで機会を増やす、ということですね。

ポイントになっているところで補足意見をいただいた。先ほど事務局にご説明いただいたが、社会的包摂の文化ビジョンの中ではここまで、ということはあるのか。あまり細かくやりすぎると福祉ビジョンになるということもある。その辺の線引きがあれば教えて欲しい。

(事務局)

文化ビジョンの中でどこまで書き込むかというところで、議論を聞いて悩んでいる。策定にあたっては庁内で、福祉や様々な隣接する政策分野の職員と会議をして議論をしてきた。障害福祉の担当も入り現場の実情も踏まえ、どこまで書くかせめぎ合いをしながらここまで落とし込むプロセスを踏んでいる。障害福祉の現場では、生活に必要な福祉の給付に限られた資源を注がねばならないというところで、文化・芸術まで届いていないということかと思う。もしかしたら文化の切り

口でサポートしていけるところがあるのか、とも思う。課題意識は持ちつつ、どこまで書くかという議論の結果、このような文案になっているところではある。

(コーディネーター)

文化ビジョンの策定については今のようなお話で、庁内での調整がついている、ということですね。

文化振興財団に質問ですが、社会的包摂というテーマで、こういうことに力を入れている、気をつけている、ということがあれば教えて欲しい。

(オブザーバー)

アルカイクホールでも無料の公演も実施したり、また、生涯学習プラザで広く楽しんでいただける事業をしている。ただし、先ほど委員の意見を聞き、文化を効能として謳ってしまうと非常に危険で、役に立つから文化がよいとなると本末転倒ではないかと感じた。公益財団法人である文化振興財団では、学校からは届かない子ども、全く文化に関心がない家庭の子どもなども意識している。例えば、市内の小学生は、6年生なるまでに一回はアルカイクの大ホールで何かを鑑賞できるような機会づくりに取り組んでいる。

(オブザーバー)

コロナ前は、ネグレクトの家庭を対象に音楽を聴く機会を開いたりした。そういった取組は調整に時間はかかるが、福祉とタイアップした事業を今後も続けていきたい。市内小学生の鑑賞機会については、劇団四季の公演を小学生全学校が必ず年一回鑑賞できる機会を設けており、この2年間はコロナで実施できなかったが、来年度からはまた実施予定である。

(コーディネーター)

財団の工夫が分かった。財団の社会包摂に関する取組で、文化ビジョンに反映させたい内容があれば。

(オブザーバー)

市の文化ビジョンを受け、財団では具体的にどんな事業が必要か考えていかなければいけない。社会包摂を含めた事業展開について、財団独自の事業計画として策定していく。我々が思いつかない事業があると思うので、ぜひ意見をお願いしたい

(コーディネーター)

例えば、障害者施設などへのアウトリーチ事業を財団でも行っているが、そういう事業をもっと増やして欲しいというところか。

(委員)

情報が少ない、というのが一番大きいと思う。たまにメールが来るが圧倒的に情報が少ない。母

子家庭や貧困家庭のおうちでも、見る機会が増えるときと子どもの心も豊かになると思うので、そういう子どもたちに見る機会や行かせてあげる機会を、市の HP のどこかでも情報があればいいと思う。尼崎市の HP をよく見るがイベントカレンダーに出てないイベントがとても多い。イベントに行った人からは面白かったと聞くので、HP はしっかり更新して欲しい。

(コーディネーター)

行きたいイベントに参加できないなど様々な事情がある方は多いが、何か PTA の活動や日本語教室の経験からご意見やご感想があれば。

(委員)

5年間PTAをしていたが、行きにくいというのはあまり聞いたことがなかったが、確かに情報が少ないのかなと思うところ、家の近くであれば参加がもっと多いのかなと思う。子どもは校区外には出てはいけないというルールがあり、親と一緒にあれば出られるが、例えば道路を隔てた隣の公園のプールは校区外で親と一緒にでないと行ってはいけないなど、行動範囲が狭い。小学生の間は特にそういうことがあり、親と一緒にだったらといっても専業主婦は少なく働いている世帯が多いので、なかなか役員の引き受けもないような状態であった。行きにくいというよりは行く気がないとも感じる。ただ、青少年センターが移転する前は近くだったので、子どもが出ている音楽隊を親が見に行くということが多かった。ただ最近ではコロナでそういう機会が減ってしまってかわいそうだなと思う。

余談だが、地域総合センター上ノ島で子ども食堂が月2回あったが、そこも隣の小学校の校区になり校区外で行きにくかった。隣の校区の子どもたちは結構行っていたみたいだが、宣伝も行き届いて無かったので、私の校区からは参加が少なく、また親御さんによっては食べられない子が行くところだから行ってはいけないという声もあったと聞いた。

(コーディネーター)

今お話しが出ていたのは少年音楽隊のことだと思うが、来月発表会があり、視察予定である。社会的包摂やアウトリーチ活動などこうしたところを強調した方がいい等あれば。

(委員)

社会包摂というのは新しい表現で、私が理解していないかもしれないが、誰もみな人として生き、役割を果たしている。助けあって社会になっていく。助け合っていく社会を作っていくには、やはり出会っていく、知り合っていくことが一番大事なことと思う。その大きなファクターの一つとして、文化を通して人がつながっていくことになる。異文化、多様な文化が一つになったとき、それが相互に尊重し合えるような、そうした文化も必要になってくる。尼崎こそ多様な文化を多様として尊重し合えるような、精神的な文化の必要性が問われているのではないかと感じる。一人の人に多くの人に関心を持てるといいが、その人を知っている人がどうその一人の人に関心を持てるか。障害者など多様な人々がどういう風に人とつながっていくか。尼崎市民として、そうした心根を持っているような人に、学び成長していく必要性があり、その学びのきっかけは何かというと、前回発

言されていたが、人と人が混じり合う中で相互に教え合うような社会、そのことが必要とされている。そのことを私は生涯学習という言葉に似通って使っている。あらゆる人が取り残されたくないというが、取り残せないようにするのは市民であり、市民一人一人がその心を持っていないとあり得ないのではないか。それを行政にお願いするだけではなかなか完結していかないのではないか。学び育っていく、自らが育ち自らが他の人と共に時間を共有する中で、確認し合ったり尊重し合ったりしていくことが必要とされているのではないかと。人と人とのつながりがどんどん希薄化していると言われるが、そういった社会において取り残されてしまう人ができているということなのではないか。あらゆるところで文化への意識が広がっていくと繋がっていくのではないかと。ハンディキャップがある人たちがどう幸せな時間を過ごしていけるかを考えた時に、誰かがいつも見守ってくれている、と思っただけでも勇気が出るし安らぎが生まれてくると思う。

劇や音楽など芸能や芸術に子どもが触れることによって感動が生まれる機会もあると思う。例えば音楽が持っている大きな力で、従妹がピアノの先生をしており、ある時、音楽療法、音楽によって認知症の進行を遅らせる効果が出たことを知り、高齢者施設へ出かけて行って昔の童謡をやるようになった。そうするとオファーがたて続き、グループを組んで色々な施設を回るようになった。音楽を文化ととらえると、文化の力によって人がつながっていく、認知症という大きな病も遅らせていける、或いは時間を共に過ごしていける。社会包摂というのが権利とか義務とか人権とかいう問題に行ってしまうと文化の話をしきれないところがあると思うが、文化ビジョンの冊子にどう書き込むかというところで、委員の意見が反映されるのは素晴らしいがここに書き込まれても書き込まれていなくてもこの場が共通の認識になれたのではないかと。今日は来てよかったと思う。こんな会議を開催できる尼崎市、広い情報を持ったコーディネーターが来てくれていたり、最後、私が一番幸せだと思う。

今回の会議については、文化ビジョンを完成させなければならない状況の中で、社会包摂をより多くの市民に理解してもらおうための一つのツールとして文化というのがあるんだということだと思ふ。

(コーディネーター)

今のお話にあった、文化の力が人を結び付けたり繋がりをつくったりというのは大切で、その現場に毎日おられる委員の方に一言ずつもらって次のテーマへ移りたい。

(委員)

ピッコロシアターのミッションは、芸術で地域をつなげてみんなが生きやすい社会をめざすというもの。先ほど委員が仰ったことに尽きる。文化には、本当に人と人をつなげる力があるなど日々実感しながら仕事をしている。劇場はかなりコミュニケーションをとる必要のある場。そういう中でいろんな創造物ができあがっていく。面倒がかかる面もあるが豊かな時間と思っている。

(委員)

先ほどの小学生のための鑑賞教室しかり、せっかく立派な劇団、劇場があるので市民に対する告知・宣伝をもっとされたらいいかなと思う。どんな形で活動を市民に訴えているのか、チラシも

そんなにならないような気がする。

(委員)

広報担当もしているので大変耳が痛いですが、ピッコロシアターは開館して44年、劇団は30年近く活動している。コロナ前で言うとピッコロシアターの利用者数が年間およそ13万人、そのうち約10万人は貸館、一般の地域のバレエや音楽、地元中学校の吹奏楽団などそういった方の利用で10万人である。残りの3万人が自主事業のピッコロ劇団公演やその他自主事業の来場者、ワークショップ参加者、演劇学校・舞台芸術学校の生徒となっている。そのような状況なので、ピッコロ劇団の認知度というとまだまだ低いかもしれない。今後、地域に密着した、尼崎の人がよく分かるような、気質に寄り添ったような作品を作っていくことが非常に大事かと思っている。現状、演劇好きの方に寄った内容が多いが、ファミリー劇場などは世代を超えて楽しんでいただけるものになっているので発信をしていきたい。近年は、アウトリーチ事業のニーズが高くなっており、ピッコロ劇団員による外国人の方へのワークショップであったり、尼崎の特別養護学校公演であったり、それを通してつながった方々が劇場に来ていただく、というような流れになっている。できれば大ヒット作も作りたい。尼崎市民の方が面白いよと口コミで言っていただくことが一番。頑張りたい。

(コーディネーター)

先ほどみんなが楽しめる音楽環境の話もあったが、もっとこういうのがあれば人とつながりやすい、取り組みやすいなどあればコメントをお願いしたい。

(委員)

基本的に個人で活動しているので、形にしていくのが難しいこともある。私の場合は音楽で知り合った先輩方に相談して、どうしたらいいか話し合うことができるが、始めたてで何も知らない、ライブのやり方も知らないような人もおり、そういう人にとって先輩みたいな存在がいたらやりやすいだろうなと思う。

(コーディネーター)

専門用語でメンターやチューターというが、ちょっと年上や経験がある人がアドバイザー的についてくれるという仕組み。例えば何かやりたいときに財団に相談してこういう人はいませんか、など相談するのもいいと思う。それが尼崎市全体の財産なので遠慮なく言った方がいい。

一通り委員の皆さんからご意見をいただいたので、もう一件の評価の議題について資料3の説明をいただき、再度委員の方からご意見を伺いたい。

(事務局)

本日ご欠席の委員より素案に対する意見をいただいているので先にご紹介したい。

若い人という表現について、現在の日本の平均年齢や年齢別の人口分布を見たときに、「若い」ということばかりに言及することに違和感が出てきた。高齢者にとっても様々な芸術文化に触れて

楽しむ機会があることも大事である。

子育て世帯が親子で芸術文化に楽しめる仕組みも必要だと思う。例えばショッピングモールで過ごすことが選択されるなら、そこに良質なコンテンツを持参して民間と共同で市民が芸術文化を体験する場を設けていくなど、立場の異なる人が共に参加することも一案だと考えた。

年齢も性別も垣根なく、色々な人が学び交わる機会が得やすいことが大事だと感じている。

(資料説明)

- ・資料3 尼崎市文化ビジョン(第2次)の推進体制と評価について
- ・参考 令和4年度 施策評価表(令和3年度決算評価)

(コーディネーター)

これは評価の仕組みであり、今までやってきた評価の方法と来年度以降考えている評価の仕組みを示したものの。何かご質問やご意見があれば。

(各委員)

特になし。

(コーディネーター)

これは今後の話で、この委員会が一番のミッションは文化ビジョンをとりまとめることであり、今後の評価については市役所の方で練り上げていただければよいのではないかと。

続いて、今後の文化ビジョンの取り扱いについてご説明いただけますか。

(事務局)

今後のスケジュールをご説明させていただきます。

本日でいただいたご意見を参考に所要の修正を行う。そして文化ビジョン素案を公表し市民の皆さんから広くご意見をいただくパブリックコメント(市民意見公募手続)を12月末から1月中旬に行う予定である。それに先立ち、文化ビジョンは法に基づいて教育委員会の意見を聞く必要があり、11月中旬に同委員会に諮りご意見を頂戴する。その後、市の重要施策を審議する政策推進会議に諮り、12月に市議会に提示予定。パブリックコメントを経て修正した後、2月を目安に文化ビジョンを策定する予定である。その後市民の皆様は文化ビジョンを知っていただくためのリーフレットをカラー写真なども入れて作成し配布したいと考えている。先ほどビジョンが市民に読んでもらえることが何より大切だ、という意見も頂戴しており、私のアイデアレベルではあるが単に冊子で公表するだけではなかなか伝わらないというのであれば、動画配信等いろんなメディアでのPRも選択肢になろうかと思う。せっかく皆さんで作ったビジョンなので多くの人に見て知ってもらえるための取り組みを工夫していきたい。

(コーディネーター)

最終的な案は皆さんにメールか何かで配布されるのか。

(事務局)

市民に公表する前にはメールでお送りする。

(コーディネーター)

顔を合わせてやる会議は今日で最後になり、その後市の方でとりまとめた案を皆さんの方へ一回送り、確認いただいた上でパブリックコメントに諮っていく、ということになる。

最後に委員の皆さんから一言ずついただきたい。

(委員)

あれを言っとけばよかった、ということはほとんどない。完全燃焼である。このビジョン委員会はすごく楽しみであった。頂いた尼崎城の CD は、本当に尼崎が好きな、尼崎への愛に溢れた若者に出会えたことがすごく印象的で、別の委員は近所の小学校の PTA ですごく様々な活動に参加されている。また別の委員はすごいバイタリティのある方で情報も多く、委員からのエールはとても素敵だなと思った。ビジョン会議に出させてもらってよかった。感謝申し上げたい。別の会議で委員とはよく会う関係性であり、またお願いします。オブザーバーとして参加いただいたお二人については、先程このメッセージがどう伝わるのかの懸念や、そのための広報の話もあったが、ぜひ財団の方でも文化ビジョンのベースを感じさせてもらいたい。ありがとうございました。

(委員)

ピッコロシアターに努めて 18 年になるが、実際に市民の皆さんから色々なご意見やお話を聞く機会がなかったなど勉強不足も感じたし、良い刺激をいただいた。尼が好きな皆さんに囲まれ、尼崎に対する愛着が私自身も高まった。ぜひ尼崎市民に愛される劇場づくりにつなげていきたい。ありがとうございました。

(委員)

今更ながら、なぜ私がこの場にいるのだろうと考えると、それも過去に登校拒否の経験から音楽に出会って自分の気持ちを表現し、それを経ての今に繋がっているということを感じることができた。それが無ければ会うこともなかっただろうし、考えたこともないようなことを考えられたのもいい経験になった。これを機に尼崎をもっと好きになった。実は私は、尼崎好きだと思っただけでちょっと時間がかかった。尼崎の歌を作ったらどうかという先輩のアドバイスを受けて作ったらより好きになって、どんどん作ろうと思っ、今尼崎の歌が4曲ある。今後も尼崎を推して活動していきたいし、もっと尼崎でライブがしたいのでよろしくお願いします。いい経験をさせていただいた。ありがとうございました。

(委員)

いろんな職種の方と出会え、皆さんが尼崎のことがめっちゃ好きなことが熱い位伝わってきて、私も尼崎のことが好きだと再確認できる場所だった。これからも子どもたちと尼崎の文化やいろ

んなことを経験したり見たりしたいと思う。

宣伝だが、今週土曜日に橘グラウンドで、ミーツ・ザ・福祉というイベントがあるので皆さん時間を作って来ていただけると嬉しい。勤務するデイサービスの子どもも出る。新喜劇は障害のある人もない人も一緒になってコケようという場所。障害者の人を見て怖いとか何かされるのではないかというイメージがまだ日本のどこかにあるが、ミーツ・ザ・福祉の場所は、彼らの表現を最大限に活かせる場所だと思う。子どもたちはダンスをするので、ぜひ私が作った推しうちわで応援していただけると嬉しい。

とても楽しい時間をありがとうございました。これからも尼崎を愛していきたいと思う。

(委員)

初めに応募した時は全然分からず、音楽や美術のことだと考えていたが、一回目参加してから文化は広いものだということに気づき、驚いた。いろんな立場の方が参加しいろんな話が聞けて毎回楽しみにしていた。これから子育てをしていく世代が尼崎で増えていって欲しいと思った時に、文化が根付いていたらいいなという想いがある中、いろんなお話を聞き勉強になった。最初に事務局から名刺をいただいた際、「仕事と思うな、人生と思え。」という言葉があり、それを見た時、私がかつて働いていた時にそういう気持ちで取り組んでいたらもっと違っていたんじゃないかと気づきがあった。

いい経験をさせていただいた。ありがとうございました。

(委員)

漠然とした文化というものに対して、役所の方々がこれだけ真剣によく考えられていた、というのが実感である。尼崎は隣に西宮、芦屋を控え、こういうものは育たない街だ、という思いがあった。私は尼崎のおかげでここまでいろんな経験をし成長させていただいた、今はその恩返しのもりでやっている。官民一体になってここまで考えていることはなかなかできないことだと思うし続けていっていただきたい。集大成的なものが、5年、10年先に出来上がっていたらいいと思う。どうかいいものを作っていただければと思う。ありがとうございました。

(オブザーバー)

私は今アルカイクホールにいるが、いろんな文化に触れながら、イベント・事業は勿論だがもつと上のアップデートされた文化、この場でいろんなお話を聞けて本当に勉強になった。ありがとうございました。

(オブザーバー)

私も生まれも育ちも尼崎で、尼崎は大好きである。平成7年、前々回のビジョンを策定した時にその部署にいたが、私はそれまで根っからの体育会系で文化に触れあうということが全くなく、30歳のときに初めて文化に触れ、歌舞伎や浄瑠璃を見た時に、なぜもっと早く触れ合うことがなかったかと思った。先ほどの議題に戻ってしまうが、そういった意味で幼少時の時に自分から進んでというよりは、身近にあって自然にそういった授業が受けられていたら、自分自身もっと豊かな

人間になれたのではないかと思いながら、この会議に参加していた。ありがとうございました。

(コーディネーター)

この会議はとても楽しい。委員の皆さんから積極的に発言いただき、また委員の皆さんのバランスがよく、それぞれの立場から文化や尼崎の暮らしについて考えていただいていることにとっても私自身勉強になった。こうして皆さんとお目にかかるのは最後になるので、皆さんにお礼を申し上げたい。また事務局も大変お疲れさまですが、まだ仕事が残っているのもう一頑張りお願いしたい。ありがとうございました。

(事務局(総合政策局長))

一言ご挨拶させていただく。4回目にして初めて出席させていただいたが、これまで3回のご議論については文化振興課から報告を受けており、その積み重ねを素案としてお示しをして、本日よりまとめの形をとっていただいたところである。4回に渡り、終始熱心に建設的に、また多角的に様々なご議論賜り、事務局を代表してまずはお礼申し上げる。

これまでの文化行政は、本市の総合計画の中で「魅力創造・発信(シティプロモーション)」、尼崎のイメージアップという観点で、本市の文化の良さ、地域資源の価値をより磨いて発信することでイメージアップや市民の皆さんに尼崎にはいいものがある、という意識を持ってもらうことを主眼として行っていた。この10年の取組の中で市民の本市に対するイメージは、解決はしていないが改善はしてきた。そうした機会を捉えた中で次の10年どういう形で考えていこうかとなったときに、我々がした議論の中で方向性は「地域コミュニティ・学び」へ位置づけることであり、これからの時代については、人々の地域の暮らし、生活、地域の活動、それぞれの方がお持ちの学びの中での親和性を文化の中に取り込むべきではないかということ。そうしたことを背景として、今回の文化ビジョンの改定の作業をお願いした。

コーディネーターを受けていただいた委員をはじめ委員の方々には、様々な形で貴重な意見をいただいたと思っている。それについてはいろんな報告を聞く中で、なるほどなど何度となく感じさせていただいた。今回の素案は、これまでの振り返りもできたし、これからの10年に向けたブラッシュアップもできたと思う。また、地域での学び合いや活動、人を育てていくという話についても含めた形でとりまとめられたと思っている。これから諸般の手続きを経て形となっていくが、概ねこの形で来年度以降の文化行政を進めていくことになるかと思う。行政は、計画を作ったら終わりによく言われるが、市長も、計画は作るだけでなく使う、使ってこそその計画、使わないのであれば計画は作らなくてよいと申している。そういうことから来年度以降については、文化ビジョンをベースにして文化振興行政を進めていくので、引き続き各委員の皆さまにおきましては、本市の様々な形で文化振興や文化に関する事業にお越しいただいたりご協力いただければと思う。その節は引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

(事務局)

それではこれをもって第4回文化ビジョン会議を終了する。4回に渡る出席と闊達なご議論をありがとうございました。